

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの 適切な保全に向けた取組について

九州森林管理局 宮崎北部森林管理署

急峻な地形を有する宮崎北部森林管理署管内にある九州脊梁山系の山々には、豊かな自然環境が広がり、生物多様性の保全や学術研究等に重要な役割を果たしているほか、その渓谷等は優れた景観をなし、保健休養の場としても親しまれています【写真1〜4】。また、下流域の水がめとして、洪水緩和機能や水源涵養機能といった地域の生活に欠かせない役割を担っています。

平成29年6月には、大分、宮崎両県に跨がる祖母・傾・大崩山系周辺地域がユネスコエコパークに登録されました。

ユネスコエコパーク設定の趣旨

ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的とし、ユネスコが開始した事業であり、「地域の自然と文化を守りつつ地域社会の発展向上を目指す」こととされています。

ユネスコエコパークは①保存（生物多様性の保全）、②学術的研究支援（科学的な調査や教育の場を提供）、③経済と社会の発展（自然環境の保全と調和した持続可能な地域発展）の3つの機能を達成することが求められており、これら個々の機能は独立のものでなく、相互に強化する関係にあります。

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークは急峻な山岳地形と美しい渓谷といった優れた景観と、常緑樹林から落葉樹林までの幅広い植生が見られるとともに、エコパーク内には特別天然記念物のニホンカモシカや、祖母・傾・大崩山系の渓流にのみ生息する固有種のソボサンシヨウウオといった希少な野生動物植物種が生息しています。さらに、地域住民による農林業や観光業などの自然資源の持続的な利活用が図られており、特に仏事に

用いられるシキミは国内随一の品質を誇っています。ユネスコエコパーク内は、①厳格に保護を図る「核心地域」、②核心地域を保護し、エコツーリズムなどに活用する「緩衝地域」、③人が生活し、自然と調和した持続可能な発展を実現している「移行地域」の3つの地域にゾーニングされており、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク内の①核心地域と、②

管内概要

宮崎北部森林管理署は、宮崎県北部の日向市に所在し、宮崎県北部地域の国有林32,362haを管理経営しています。

管内の国有林は、熊本県、大分県境に接する九州脊梁山系の1,000メートル以上の山岳が連なる急峻な地形を呈するところに存置し、九州中央山地国定公園、祖母傾国定公園に指定されています。この地域は、五ヶ瀬川及び耳川の源流部ともなっています。

また、太平洋側の日向灘に近い低山地帯では、小団地の国有林が分布し、海岸防災林として重要な役割を果たしています。

さらに、渓谷や優れた森林景観などの豊富な観光資源に恵まれ、「日本美しい森お薦め国有林」にも選定されているレクリエーションの森「向坂山野外スポーツ地域」には、日本最南端の天然雪スキー場（五ヶ瀬ハイランドスキー場）を有するなど、保健休養の場としても多くの人に利用されています。



署の基礎データ

所在地	宮崎県日向市日知屋 17371-1
区域面積	318,590ha
うち森林面積	276,688ha
国有林	32,937ha (国有林率 11.9%)
管轄区の関係市町村	2市5町2村 延岡市、日向市、五ヶ瀬町、高千穂町、日之影町、門川町、美郷町、諸塚村、椎葉村

民間団体との協定締結による 保全・保護活動

緩衝地域はその全てが国有林となっています。これら核心地域や緩衝地域には保護林を設定し、森林生態系や希少な野生生物の保護を図るとともに、継続的なモニタリングを実施しています。

宮崎北部森林管理署では、「多様な



写真1 鋒岳



写真2 祝子川溪谷



ソボオオサンショウウオ
(提供:豊後大野市自然史友の会)



写真3 鹿川溪谷



写真4 御葉岳に咲くクシアケボノツツジ



写真5 鋒岳山頂から望む上鹿川集落



写真7 ボランティアによるシカネットの設置

活動の森」における森林空間整備活動として、宮崎県延岡市北方町上鹿川【写真5】にあるフォレスト・マントル上鹿川団体の代表者である戸高正男氏と、「多様な活動の森における森林づくり活動に関する協定書」を平成26年6月に締結しました。この協定に基づき、鬼の目山において、林道及びその周囲における歩道の修理・作設等に取り組んでいます。鬼の目山は、遺伝的多様性の高い天然スギの集団などの学術的価値の高い植生を有し、「鬼の目山生物群集保護林」が設定されています。特に、「森の巨人たち百選」にも選ばれている貴重な巨木である鬼の目スギの周辺では、シカの食害による下層植生の衰退が深刻化しており、上鹿川集落住民、ボランティア及び宮崎北部森林管理署職員が協力して、シカネットを設置し、荒廃地となった林地の植生回復と、貴重な高山植物の保護に取り組んでいます【写真6、写真7】。

ユネスコエコパーク内におけるシカ被害対策

このような保全活動のほか、フォレスト・マントル上鹿川団体では、主に大学生を対象として、団体の活動の趣旨の説明会や希少種観察会・植生調査等を実施しており、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク内の適切な保全・管理に向けた地元の取組の重要性を次世代にしっかりと引き継ぐ活動にも力を注いでいただいています。

エコパーク内において近年深刻化しているシカによる森林の食害を防ぐため、宮崎北部森林管理署では、職員による捕獲を実施するほか、延岡市猟友会及び日之影町猟友会と平成27年7月にシカ被害対策協定を締結し、民国連携によるシカ被害対策にも取り組んでいます。この協定は、シカの個体群を適正に管理するため、国有林がく



ユネスコエコパークにおける今後の国有林の取組

り罾を猟友会に無償で貸し出し、シカ捕獲を促進することにより、農林業被害を防止し、生態系を保全する事を目的としています。また、貴重な植生をシカの食害から保護するために、エコパーク内の障子岳ほか2か所に植生を保護するための柵を設置し、ヨウラクツツジ等の希少な植物を保護しています。今後も積極的に国有林・民有林間での情報共有を行うなど、シカ被害対策の地域全体での取組を促進していくこととしています。



祖母・傾・大崩ユネスコエコパークは、急峻な山岳や美しい渓谷などの自然環境を次世代に確実に受け継ぐとともに、地域住民の誇りを醸成し交流人口を増加させることによって地域経



写真6 鬼の目スギ

済と地域社会の発展を目指しています。このような中で、国有林は核心地域と緩衝地域の全域を占めており、これを適切に管理することがユネスコエコパークの理念に叶うものと考えています。また、国有林における自然環境を活用したいという地域の要望に対しても積極的に連携を図り活動に取り組めます。

宮崎北部森林管理署では、今後も地域との連携をさらに深め、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの適切な保全・管理に取り組んでまいります。